

■第3回委員会での主な意見と対応

質問・意見	回答・計画への反映
～計画理念・基本方針について～	
1・計画理念の目指す都市交通の方向性と基本方針との関係性は整理が必要	・計画素案作成時に整理したいと考えております。
～各交通モード・施設の基本的考え方について～	
2・国土交通省では重要物流道路の指定を検討しているところであり、計画へ位置付けを検討してほしい	・計画素案作成時に整理したいと考えております。
3・各モードをどう結び付けるかが重要	・「各交通モード・施設の基本的考え方」において、「各交通モード間を連携するシームレスな交通」という項目を追加して整理したいと考えております。
4・道路空間再配分に関して、幅員の狭い4車線道路や中央分離帯の有効利用なども考え、計画への書き込みを検討する必要がある	・計画素案作成時に整理したいと考えております。
～交通戦略について～	
5・災害や事故で地下鉄やJR止まった時の補完となる交通手段を考えることが重要 ・新千歳空港が使えない時のバックアップとして丘珠空港が重要となる	・「安全・安心なまちづくりパッケージ」において目標に掲げている「災害に強い交通環境」を実現するために重要な視点であることから、今後関連する交通施策を実施していくうえで参考にさせていただきたい。
6・郊外住宅地では日常生活にあった柔軟な交通手段（コミュニティバスや乗合タクシーなど）を検討することが重要	・「交通戦略」（今後10年に実施する交通施策）において、「新たな運行手段（デマンドバス等）の導入検討」をすることとしております。
7・交通ネットワークと福祉などの他分野の連携が重要。横断的に考え連携すると価値が高まる。市内部の連携が非常に重要。	・「交通戦略」（推進体制）において、「協働の取り組み」への書き込みを検討したいと考えております。
8・郊外部では既に公共交通を確保するのは難しい局面に入ってきていると思われ、公共交通を維持するために具体的な検討を進めることが重要。交通戦略では具体的に示すべきである。	・「交通戦略」（今後10年に実施する交通施策）において、「地域の移動手段の確保（赤字バス路線の運行に対する補助等）」を図ることとしております。また、計画策定年次以降の交通施策を検討するうえでも、重要な視点であると考えております。
9・都心と地域交流拠点は徒歩が重要。今後は都市としてどう良くなるのか数値としてエビデンスを分析し、交通とまちづくりが連動していることを示すことが重要	・重要な視点であることから、今後関連する交通施策を実施していくうえで参考にさせていただきたい。
10・札幌駅交流拠点では交通情報の提供やバリアフリー化を実施していくことが重要	・「交通戦略」（今後10年に実施する交通施策）において、「札幌駅交流拠点の再整備（バスターミナルの再整備や乗換動線の確保、待合空間における情報発信等）」を実施することとしております。
11・ICTや自動運転など新しい技術・制度も踏まえて検討することが重要	・「交通戦略」（今後10年に実施する交通施策）において、「ICTを活用した観光客向け交通情報の一元的な情報発信」等を実施することとしております。
12・バス・タクシーなどの事業者の横断的な連携が必要。地域にあった運行形態を取ること、地域と意見交換をすることも重要。	・「交通戦略」（推進体制）において、「協働の取り組み」への書き込みを検討したいと考えております。
13・公共交通の利用促進などモビリティマネジメントの取り組みが重要	・「交通戦略」（今後10年に実施する交通施策）において、「札幌らしい交通環境学習などモビリティ・マネジメントの推進」を図ることとしております。
14・自転車通行空間に対する違法駐車を取り締まり強化を行うことが重要	・重要な視点であることから、今後関連する交通施策を実施していくうえで参考にさせていただきたい。